今日の學問、藝術は明治の初期から見て、その進歩は著るしいものだが、今一段飛躍させるのだ。この爲に島國根性の舊套墨守を止めよ！　しかして世界的規模の學問藝術完成に精進せなければならぬ。

といふことの意味は、今日迄の學問藝術は、日本國家を對象とせる活躍であり、指導であり、表現であつたが、向後は世界の諸民族をして渇仰崇拜せしめ、指導下に就かしむる如き價値高き普通のものを發展、創造せよ、とするのだ。

その根本並びに技術は種々あらう。

新世界哲學を把握すること、その一つであり、日本主義を悟得すること之れに次ぎ、更に、隱れた る天才、新人の登龍を一層容易ならしむる如き、方式、制度を採用する。研究、創造精神を尙振起すること、技術家を尊重すること等がある。

大事業と云へば日本國民、國土、國體そのものが、崇遠の藝術品たることだ。學問精神の結晶たることだ。更には規律、勤勉、努力の修養道場たることだ。又、學問も藝術も神を讃へ祀る如き敬虔、眞劍味が無ければならぬ。我等は如何なる實世間の深奥に祕む、醜惡汚濁と外見さるゝ面の裡にも、『神』を拾ひ上げ奉る事が可能である。この神性を理智的に說明するのが、學問であり、情操として表現さるゝは藝術なるに外ならぬ。

七、對英、獨、ソ、米策

現代迄、政治的に經濟的に世界の覇權を握れるものは英國であつたが、その英國は漸次沒落の運命にある、その後はどうなるか、獨逸、伊太利を中心とする歐洲聯邦が出來るであらうが、サヴェートは或ひは直ちに之に加はらぬのではあるまいか？

亞米利加大陸では依然モンロー主義が實行されるであらう。これは合衆國が衰運に向ふ迄續くであらう。實力を以つて干涉しようとする國が現れざる限り。之等に對して東亞では日本を中心とする亞細亞聯邦の形態の統治組織が成立すると思はれる。この範圍は始め狹く、日滿、支、タイ、フイリツピン、蘭領、佛領印度支那の參加する程度より、徐々シベリア、印度、イラン、濠洲、ニュージランド南洋諸島等の加入を得て擴大するであらう。その樣に日本としては努力せざるを得ない、と考へる。

亞佛利加は依然相當期間、暗黑大陸ではあるまいか？　されば、歐洲聯邦の支配を餘儀なくされるであらう。

斯る世界鼎立（ていりつ）の形勢の中にあつて最も、民族國家生命エネルギーを强力に持續するものは、日本と

サヴエート（又は獨逸）と米國であると、我等は推定する。即ちこの三者が世界の支配權を自由に掌中に弄するであらう。

そこで、この三勇士が、遂に喧嘩して共斃れ、又は一人の勇者活躍時代に入る樣になるか、或ひはよく協調して平和世界を維持する樣にするかの運命決定力は一つに懸つて我が國の外交手腕の賢明さ加減にあると言はねばならぬ。

第一段の策として、英國の自由主義、帝國主義、舊世界觀の理念と支配權を追放するのであるから、能ふ限り、露、米と提携する樣にせねばならぬ。特に露と武力的に爭ふのは非常に不利だと考へる。爭はずに壓迫して、ジワリ〳〵手を東亞から引かせて中央亞細亞の方へ持つて行かしめるのだ。

又、英雄、小英雄（サヴエート）を知る呼吸の會ふ一面が有つてもよさゝうではないか？

英國と結ぶことは絶對に避けよ！　英國の敵性國と結べ、又英、米を結ばしむる可からず。米國と經濟的には斷交してもよろしい、が彼の國民感情を害せぬ努力は極めて必要、且つ利用する位の芝居を打て！　その方が支那事變處理に有利であらう。

米國の感情を和らげて置いて、米國の租界返還、駐在兵引揚げに斷と行く。世界史の動向として斯くせざる可からざるを後に認識せしめよ！　それから東亞聯邦成立にも同樣の方寸で行く。實行しつつ、文句横鎗が出れば、天命として斯く成らざる可からずと嘯けばよろしい。勿論、先手實力を以つて相手の手を押へて置くのだ。

支那事變處理、東亞聯邦確立の一大原則線から一歩も退いてはならぬ。退かぬ樣であれば、踏み留まる、捨身の戰法、即ち不得止正義の干戈を交へるのだ。

第二段の策として、シベリア（オムスク附近より東半）の獨立を圖れ！　これも能ふ限り智囊を絞つて合理的平和的に解決をつけるのだ。

その根本は、ソ聯がシベリア獨立の爲に不利益を蒙らぬといふ印象と實質を與へること、及び、シベリアは獨立によつて繁榮するといふ結論を齎らすこと。

次に北樺太を占領又は買收せよ！

又、フイリツピンの獨立促進と援助と、グアム島の自決、獨立乃至買收だ。

グアム島の組合、之れは主として軍事的理由に於て米國の重要視するところである故、將來、太平洋上に戰爭の脅威がない、否、グアム島を米國が放棄することはその戰爭の脅威を除く所以に外ならぬことを强調、乃至印象附けることだ。

獨逸とは共存の意識を以つて當分提携すべきであらう。しかし、東洋から一切の外來勢力を驅逐す

るに特別の扱ひを與へ得ぬ。

八、持てる國へ

富は人の頭の中にある、とは名言だ。

夢を描くことを強ちに嘲笑するは當らぬ。何故ならば、萬世不朽の偉業も、直斷速行の天才政治も、振古未曾有の發明發見も、博大悠遠の藝術、文字、宗教も悉く、宇宙普遍眞理に憧憬渇仰して盡きざる熱烈なる夢の所產であるといふ嚴たる事實を動かし得ないからである。

我等は永久に燃炎し續くる火の如き夢を抱く。如何なる國家と雖も努力精進以つて克く持てる國たり得る！　と。知らず、世界六拾有餘國中、何れの國ぞ最も持てる魁たり行く哉。

我等は日本人である。日本人である限り、日本の國を、他の如何なる國よりも愛する。故に、我が祖國をして、世界中の一番の持てる國たらしめ得度しとの切願を有する。

夫れは帝國主義の實行でなく、又、選民であるといふ誇示獨善利己に非ずして。

科學力と精神力の偉大さは、戰爭に於て異常に立證される。しかし、戰時の偉大さの發揮は平和の折の眞劍なる準備に基づいて居るのだ。

科學力と精神力の發揮、その前提には勿論、人と土地がなければならぬ。

而して、地味肥沃にして資源豐富なるに加へて、優秀なる人民の科學力と精神力を應用結合せしむる、之に若くはない。が現實、我が國は、現世界の價値判斷を以つてしては土地に惠まれざる國家である。

此の貧弱者が向上する方法は二面ある。

一面は、現世界人類の價値判斷を動變せしむること、他面は適宜、土地を獲得することである。後者よりも前者の方が大切なるは云ふ迄もない。如何に立派な土地を有したりとしても、之を應用する住民の能力が低劣であればお話しにならぬは、お隣りの中華民國外多くの目前の事實に見て肯ける。

又、土地狹隘、資源乏しき我が國も、新秩序建設を以つて、漸次解決を見つゝある。

我等は玆で國民の能力改善、素質向上について具體案を眞劍に考究すべきではあるまいか？

先づ教育を改善せよ。人格主義が甦らねばならぬ。小學校より大學に至る迄、教ふる人の宗教性、道德倫理實踐力を重要なる考慮の一點とせよ！　社會環境として、陰鬱な墮落の世界を狹め、明朗な向上の部面を擴大せねばならぬ。卽ち無智、無暴、自棄、低級なる現實利己享樂主義、雰圍氣の擊滅だ。

活動、研究、眞劍、進取、奉公剛健理想主義の進擊だ。

精神主義は、富、地位、名譽を超越した平等相を生む、しかし、他面、努力、才能、健康、技倆、人物等を標準として嚴たる差別が常に行はれつゝあらねばならぬ。故に、精神的墮落者程、社會の下層に入らしめ、監獄、に入らしむる可能性を多くし、極端なる人間は、斷種、死刑を以つて臨まねばならぬ。肉體的墮落者や物質的貧窮者は救ふに容易、且つ社會風潮を紊すことは有限的だ、されど、精神的墮落者程、社會に惡風潮を無限に流布し、民族性を低級化せしむ、之等以上に出づる何ものもない！

昭和の今日、これが何よりも注目され、實行さる可き急務である。

如斯に極刑を以つて臨んで差支へない他の理由が今一つある。それは、教育に就き、學校に於て、家庭に於て、實社會に於て、合理的、科學的に能率ある精神鍛錬を徹底化して行くからだ。之れ丈の教育を行つて、尙、救ふ能はざる人間は、精神刑務所ともいふべき個所に入れ、更には斷種、死刑を行ふべし、之れ位行ひ得る自信のない生溫るい教育しか行へぬ樣では民族の向上は斷じて望めぬ。今精神刑務所と云つたが、此處で採用されるのは、やはり改善主義、魂の教育なのである。

敢へて眞似る必要はない！　が、やればやれるといふ生きた適例を見よ！　スパルタでは、七歳にして、それは肉體的ではあつたが人間の優劣を決定し、國權を以つて劣者を淘汰處分し、優秀なる分子のみを以つて徹底教育を斷行せしが故に、史上比なき勇氣、節慾、愛國、健康の美德が生誕したではないか？

スパルタはこの嚴肅主義で終始したる故に、亞典の如く文化を遺し得なかつた。されど、某國が或る時代の要請に於て一時取上げる政策としては非常に魅力のある飛躍的政策ではないか？

（尙、個人革新に關し、次項に詳說する）

如斯して、鍛錬、訓育、選擇されたる日本臣民の中から、一塊の石材を化してダイアモンドたらしむる如き發明發見が續々現れるであらう。或ひは無駄節約の大財政案も生誕するであらう。

とりわけ、食物の改造に注目したい。

新兵器の創造を考案したい。

交通機關の革命、整理統制を思考したい。

文學、藝術、宗教、詩の燦然と咲き出づるを期待したい。

オリムピツクで第一位を常に占むる肉體を欲求する。それが、國民全部の體位向上を示すものとして。

斬新な、世間中の人類の間に流行となる如き審美的にして實用向なる衣類、住宅、家財を考案、設計されたい。

しかして、病氣、貧乏、犯罪、煩悶、不安、早老、怠惰、虚弱なき日本、並びに世界へ！　即ち、病院、醫者、宗教家、寺院、教會、警察、階級闘爭、刑務所の失せる世界へ！　一つは『自然へ還ら』ねばならぬのだ。

持つ、といふことは精神的に、物質的に考へられねばならぬ。又、對國内と對國外に就いて行はれねばならぬ。

例へば、精神的に對國外にとは、日本の生成、創造せる進歩ある、宗教、道德、藝術、哲理、詩を輸出し、それを世界體制、秩序の上に遷し現はすことである。

九、革新されたる人間へ！

各種の或る方法に於て行はれる鍛錬、訓育に依り人間革新が實行されねばならぬ。

賢明なる讀者には略推察なされるところであらうが、各種の或る方法とは如何なるものであるか？及びその方法に從つて現實人間と革新されたる理想人間とが如何樣なる段階と意義とを以つて連絡するのであるか？　を論じよう。

未だ革新されざる具體的現實人間はどんな缺點を持つて居るのであるか？

それは種々數多く例示することが出來る。

病氣、虚弱、貧窮、犯罪、精神的勞苦（理想的見地より觀て無駄なる）、無智、無暴、薄志等は直ちに指頭に上る。

我等をして率直に云はしむれば、之等の問題は少しくの修養努力で雲散霧消せしむることが出來るのだ。

今一歩根本的のことを云へば、所有欲、物欲、食欲、性欲の奴隷狀態、性格的偏狹、奇警、瞞着、傲慢、思考の混亂、行爲行動の不規則等であらう。

遺傳學者は遺傳を重視し、社會學者は環境の力を過大視し、教育學者乃至教育家は教育の力を高く評價する、何れも一面の看過すべからざる正しき眞理であるが、尚我等は別の側から指摘せんは、本人の自覺更生反應努力の成果である。

人間の革新と云ふも、その主たる内容は精神の革新に歸する。我等は唯物論、科學的方法論等の長所を充分認識するが、更に觀念論、信仰的態度の價値をも忘却し得ない。二者は、學問上の立論とし

ては同時的に相入れないが、あるがまゝの生活態の中には充分織込まれ得る。

そこで、科學主義、合理主義の教育振起と共に、信仰、宗教、情操教育を强調せざるを得ないのだ。一方丈に力を注げば必ずや變態的の平衡を失つた人間を作り、一大失敗たるに氣附き、反省を餘儀なくされよう。一方を强調すると竝行して他方に意を盡さねばなるまい。

宗教、信仰の教育は、家庭、學校、教會、寺院、神社等の總ゆる機會と場所があるが、今日の日本では、家庭と學校に於て未だ不充分なるを見る。

宗教思想自體も今日のもので完全とは云へぬ。充分、檢討、改進を要する、がその主張內容はこゝに述べ得ぬ。

完全なる科學思想、精神と信仰精神、態度とを以つて、缺漏なき宇宙觀、人生觀、時相觀を得る。この眞正の觀念に從つて、眞誠の生活信念を獲得する。人は病氣すべきものに非ず、と。それが何故に病氣をするか？　その歷史的文明論的見地、社會的人間的觀點からの思考を進める。かくて、生きよう、子孫を繁榮せしめようとする二大本能の强烈不可動なる働きと相俟ち、合理的處置、直觀的行動を以つて病魔を回避する注意力と實能力を行使する樣になるであらう。

貧窮、犯罪、無智、精神的勞苦に就いても同樣である。人のものを盜む、人を殺すといふ如きことが如何に自己生命の價値的存在を轉落せしむるものであるかを知つて、到底行へなくなるであらう。

（極く稀なる特殊の場合を除く）老眼、近眼、神經衰弱、靑白い顏、瘠せた體、贅肉の體、膨滿の腹（所謂、重役、ビール型腹は醫學的見地から健康を證明せぬ、又、活動上不便であり、更に思想も不活潑たらざるを得ぬ）、畸形の容貌、體軀、傴軀、輕腰、一切が消滅する。

身體的にも精神的にも、衣、食、住に就いて、人は「自然に還る」といふ原則に沿ふて理想人間への進化方途を詮出せねばならぬ。

善が未だ高揚されない割合に、早や、眞實は甚だしく隱蔽されて居る今日の人間性及その生活內容、如何に不健全にして懊惱に滿ちたることよ？

勤勞を樂しみ、衣、食、住の合理化、理想化に依つて餘計な疲勞が失せ、睡眠時間は熟深なる四時間乃至五時間（一般大人に就き）を以つて充分ならしむ。要するに精神をシツカリさせることが大切なのだ。圓滿なる人格といふのも、この精神のシツカリした人を指すのだ。精神をシツカリさせることに依つて、正しい物の觀方、考へ方をし、標準的人格が生れ、この標準的性格の人の集りこそ、虛心坦懷、明朗、剛健そのものであらう。

前述の現實人間の缺點が除かれると同時に、人の壽命も當然延び、百歲以上二三十年を過ぐる、普

通たるに至るであらう。

死は自然死をする。

さて、我等は今一段現實的に眼を開かねばならぬ。差當り、我が國内に就いて同胞の人間革新を如何にして行ふか？

小學校、中等學校に於て宗教々育を適當に施すべきであらう。之れは主として積極的、實踐的な鍛錬、修養道場の如きに於てする。

國民全般としての生活程度を高める必要もある。これは貧富の懸隔を今少しく緩和することゝ、虚榮、虚飾、墮落等の無駄排除、活動能率の向上を企圖することに從つて望まれる。宗教々育に依り絶對健康、長壽、明朗、永生、有能、正義の信念を得て、之が徐ろに現實に顯れる樣にする。

各種の手段、見地より、禁酒、禁煙、排娼の運動教育を捲き起し、實績を擧げる。

誘惑の對象の驅逐と、本人への道德的、衞生的教育だ！　酒造高を漸次制限する。二十五歳禁酒法の達成、賣春業者の不許可。早期結婚の奬勵と可能の實現。家庭生活圓滿への教育、指導。一切惡德、惡風習の打破。男女戸外運動の時間と經濟を許さしむること。

犯罪、不規律、悖德行爲は、之を社會環境、遺傳、教育の見地から必ず人智を以つて撃滅する可能性を發見し得る。

さらば、高尚なる、眞實なる趣味、娯樂の普遍化へ！

第二章　東亞の革新體制

日本國内新體制の高度完成と相俟ちつゝ、東亞圏の革新體制に着手せねばならぬ。之の方針の下に於ける外交として東洋各國の解放、獨立を促進す可きは已に述べた。

之等各國は唯獨立せしのみで宜しいか？　さうではない、日本を盟主とする東亞聯邦を結成せねばならぬ。之の新結集の根本理念は倦迄道義である。日本の描く正義、愛、人道、平和の世界を「近きより遠きに及ぼす」てふ方式に則つての世界革新への第二階梯である。（第一階梯は日本國内）

(1)　經濟的相互扶助

東亞圏は南北に跨り、且つ日本の如き海洋國ある他方、支那、シベリアの如き大陸國がある。隨つて産物も地上一切の種別を網羅する事が出來る筈である。之を最も圓融無礙に有無相通じ、各國の科學産業を高度に興隆せしめ、物質を潤澤にし、經濟生活を繁榮せしむ可き政策を實行せねばならぬ。

(2) 新通貨の流行

曩に述べし如き人の勞力、技術、財物を準備實質とする紙幣の發行を斷行すべきである。我等は必ず、金といふ鑛物を準備として紙幣を發行し、補助貨幣を鑄造して居る今日の貨幣制度を廢棄す可きである。然らずんば、次善の策として、世界の金鑛を共同管理にする事が考案され得る。

(3) 次に關稅を消滅せしむる

これは貿易上の無政府の如くであるが、政治や精神上の權力が嚴たる國家的體面を償ふて餘りあるであらう。關稅は自由主義貿易時代には品物の國家本位に輸出入を調整する意味から必要であつた。が『自然コントロール』の行はれる貿易關係に世界が置かれる時は、とりも直さず全産業界のバランスが取れ、世界の需給も均衡を保つの時であるから、人爲的性格の强い關稅といふ制度は不必要となる。

(4) 精神、思想、哲學的統一

我等は信念として、信仰として皇道に服し、實踐し、天皇歸一に導く可き充分なる用意を有するが、この我等の信ずる所を、未だ信じ能はざる人々に先づ知らせなければならぬ。それより自覺せしめ信念に入らしめ、以つて實踐の共同に導かねばならぬ。知らしめる爲には理論が必要である。理論は能ふ限り緻密に體系的であり普遍的である可きものである。そこで一方燃ゆる熱情と共に、他方冷靜なる自己批判の科學、倫理、哲學が必要なるわけである。

我等の主張には、斯うした皇道科學、日本科學とも稱す可き理論大系の組成せらるゝ一面の準備を必須とする。今日未だ其れが世界の知識人をして充分注目せしむる程に完備して居ない。それは大きな困難なる仕事にして且つ急務中の急務たるに違ひない。

之れの完備を俟つて實踐行動と共に他民族に働き掛けるのだ。斯樣にする事が上策である。理論丈でなく、信念丈でなく、實踐丈でなく。之れが東亞の思想的統一を圖る第壹歩である。

第貳歩は新宗教の宣布と、學校制度の新案の實施である。新宗教は、基督教、佛教を日本化し包含したる飛躍的に向上せし神道である可きだ。我等は好んで危嬌の言を弄する者ではない、やれば出來ると自信することを述べて居るのだ！

小學校を印度、支那、南洋等に迄增設する。之の學校に於て東亞教本とも言ふ可き劃一の教科書を與へる。大學其他の上級學校に於ては、東洋理念を根柢要素とする科學、道德、文學、藝術を極度に速く最上に繁榮せしむるのだ。

(5) 政治的統一

政治と云ふ言葉の概念中には今後は當然教育――それも精神的及び科學的の――乃至指導といふ意味が包括されねばならぬ。

之れに據つてよく道義政治たり得る。

……

國民はその生活現實の新組織――細胞的存在の自治體――を通じて思想的に機構的に　天皇信仰の事實に入らしむ。

各國は一種の制限的自治體となる。この詳細の立案は別に行ふ機會を持ちたい。兎も角、斯くて後、皇國　天皇陛下の御意嚮は速かにテヘランの細民街の一勞働者に迄通達する如くなる。

繰り返し述べる、我等は東洋の盟主たる日本の臣民であると思つて居るのみでなく、夫れが、學問や道德や、組織や政治や、産業や軍事等の事實上に顯現す可く計らねばならぬ、と、その爲には我等自身が修養努力して優秀なる人種たらねばならぬ、と。尙その爲には衣、食、住の能率向上に深甚の考慮を拂ひ、時間、勞力、金錢物質に無益を排除し、徹底せる宇宙觀、人間觀、時相觀を悟認すべきは已に述べた。

(6)　共同軍備外諸施設

眞の平和世界に入る迄の過程として軍備を重視せざるを得ぬ。一つは警察の意味からであり、二つには西歐との生存上並びに文化上の競爭に於てゞある。そしてかゝる共同軍備も　天皇歸一體制の重要なる一翼となさしむ。

體育場、音樂堂等の今一歩豪莊雄大のものが生れてよさゝうだ。

尙、ゴビ砂漠の如きに水を入れる方法を發見して利用厚生を計り、交通上産業上に便益を齎らしてはどうか？

エベレスト高山附近も何れは開拓されて世界の銷夏公園たらしむる樣との努力位に辟易してはならぬ。日本人の中からその先驅者が出て欲しい。印度の階級制度は一刻も早く解消せしめねばならぬ。そして男女別なき、貴賤差なき偉大なる解放を行へ！

更に或る程度、民族の血の交流を許しても宜ろしい樣に思ふ。

第三章　世界の革新體制！

嚢の佛蘭西の敗因に關しての諸說を聽いて綜合するに第一次歐洲大戰後、佛蘭西は上下倫安に就き

享樂主義風潮を旺盛にし、政治的には人民戰線派の介入を許容する迄に至りたるに反し、獨逸は聯合國の强烈なる壓迫下に臥薪嘗膽、特にナチス治下にあつては國民個々生活の各部面を國家目的に集中し、以つて鋭意民族の再興に沒頭したといふことが、今回の獨逸の驚異的進捗の大捷を得せしめた所以なりと云ひ、他の點は多く語らざる如くである。右は事實疑ひを入れ得ぬ。が我等の尙一歩親切なる思考は、しかし、この樣に一つの國が苦心慘膽し、他國が油斷奢傲で居るといふ不均衡の體制が如何に危險であるか？　とする教訓に及んでゝある。而して、我等の努力は斯る不正義、非人道の世界狀態傾向を打開正導し、復讐、反視、傲慢、輕蔑といふ惡感情の一掃された全體人類生活を建設する、所謂四海同胞の地上體制を實施するてふ方向にあるといふことだ。

洵に富の乏しきを憂へず、齊しからざるを憂ふ。不自然なる鬪爭形態は、世界を愈ゝ破滅地獄に轉落せしめて行く。

生命力溢ふるゝ有能なる國家民族が、頽廢、無能化せる國家民族の膝下に奴隷化して存在することは程、不幸陰慘危險なるはない。

治亂興亡は世の常とは云へ、この邪道鬪爭現實を一段と止揚し、彼も榮えよ！　我も榮えむ、と溫かき慈愛と理解の大磐石が共同生活態の根柢に横はつて、この上にのみ公明正大自由平等の適者生存、不能者淘汰、優勝劣敗の進化原則が行はる可きで、かゝれば勝者後顧の不安なく、敗者前非の悔懺がない。

鬪爭そのものが平和の一面であり、

平和そのものが鬪爭の他面であるといふ眞實、正確なる一如世界が成立する。

人類の幸不幸の根本は、その肉體の生死、傷不傷に不在、精神の健不健、傷不傷にある。我等が、如何なる環境の打擊、肉體の損傷を受けしとも、精神が然る運命を理解し、統禦するに至らば、眼前の一得一喪、一利一害、恰も空腹と滿腹、夏季と冬季の交代循環し人生の興味を齎らすと一般、非進歩的苦痛を感ぜぬ。

歐洲で獨逸の征覇が成り、獨逸を中心指導國家とする歐洲聯邦が成立するのと、前後しつゝ東亞に於て日本を盟主とする東亞聯盟が成立し、この二者各々が米大陸の一圈と對抗し、遂に三大圈を分樹せしむるに至る。之れは今後數年を出でずして事實上に明確にならう。

各圈では相互ひにその繁榮の絢練を競ひ、米國と日本との間に一時戰爭の危險が生ぜぬと保證し得ぬ。

歐洲聯邦も、今二、三十年は今日と同一の狀態を續くるであらうが、それ以上今迄發展し來りたる

如き生命エネルギーの强燃は無いであらう。之に反し最も將來性に富み、愈々發展に次ぐ發展を以つて生存するは東亞諸民族であらう。

世には「必然」といふ將來はあり得ぬと簡單に斷言する人があるが、之れは淺薄なる思考だ。決定と自由とは常に纏絡して居る！

米國も獨逸に次いで沒落の過程に入つて行く。唯之の期間は相當長期である、と想像する。少くも五、六百年か？　一番長く對抗するのはサヴエートではあるまいか？　唯西比利亞の獨立に依つて日ソ戰爭の危機を脫し得よう。此の間日ソはお互ひに採長補短、切磋琢磨を重ねるに違ひない。

早く先見の明と實力體制とを以つて東亞ブロックを形成すれば、それ丈有利であらう。

我が國は率先運命の指示を明悟、之れに反かぬ樣に國內體制の確立と外交飛躍の速行を必要とする。

東亞ブロックを指導する地位の確保に續いて世界指導の實力培養を必要とする過程に入る。我が國を中心とする諸種の國際會議も開催されるに至らう。そして世界憲法自治國諸法等の制定、新經濟、文化整備に就いて協議する。

軍備は縮少されねばならぬ。何故ならば、皇威に浴して完成された平和保障の中に在つて必要がなくなるからだ。

政治では、統制と自由の一元化せる新形態が各國に生れる。各國元首は我が國　天皇陛下と兄弟の情義關係に立たせ給ふ。奴隸國家は消滅する。印度、濠洲、阿佛利加、南米等皆完全なる獨立國家を形成し、その組織、生活の範を日本に取る。

經濟では、眞に有無相通ずる自由世界が現出する。個々人の榮える重商主義の立場よりも、各國家の繁榮を中心とする新國際主義の立場に於て關稅の變改、輸出入の高度至善の統制が行はれよう。如斯にして世界一單位の經濟が確立する。

世界の思想、哲學の競爭に就いて、日本の思想、哲學が勝利を得る。今日、その萠芽があり、斯く豫見する。我等はその使命に獻身努力すべき必然の中にある。

日本思想の優秀性が確認されゝば、その理想體制と相俟つて精神的日本主義世界が現出するであらう。日本主義はこの時已に宇宙、天地の大精神を充分體系附け得た地上に求め得らるゝ至上の哲學であらう。

革新世界は已に述べたる如き人間改造、生活改造、國家改造と相俟ちつゝ進化出現する。

交通機關として百人乘程度のしかも設備完全なる新發明の飛行機が世界を股に懸ける。

南米、阿佛利加はぐん〳〵開拓される。世界の綠地は前に方二十里程度もの大公園が各地に設計さるゝ事に依り補はれるであらう。

人の往來も自由、敏活になる。

各國有名大學も、世界中の青年男女が共に平等に聽講出來る如く改められ、一般に教養は著るしく高められる。

砂漠は之に水を入れて沃地と化し、交通住民産業に便なる可き工事を起す。寒地、熱地にも同樣の目的の人工が加鑿せられざるを得まい。

耐火、耐震、耐風の堅固なる且つ豪壯衞生的の住宅、ビルヂングが世界的に汎布される。

要するに物質、科學、機械文明の平和的極度の利用繁榮と、精神、自然主義文明の高度の向上發達を圖ることだ。

しかし、世界革新が成り地上の繁榮が極點に達すると人類叡智の注目は他の太陽及其他の諸遊、恒星に向けられ、而して之等の星と諸傾向の競爭意識を激發し、爲に人類全部の團結に一層拍車を懸ける、が同時にお互ひの交通が始まるであらう。世界一國は丁度この楔機を以つて完全の域に入る、と思はれる。方に、人類の極盛期である。

之の極盛期が準備期の數倍たる數萬年繼續する。されど、此の後に老衰期が始まる。この老衰期は今日より以上質量共に深刻なる混亂期であらう。しかし、之の混亂期間は準備期の期間にも及ばず、短かき數千年程度の時年を以つて全滅に至るであらう。

宇宙も軈て現今の狀態を全く失ふであらう。しかし？　この亡滅の地獄の底から、更生の新生命が勃々と芽生え出づるに違ひない。

如斯に興滅流轉の鐵則から如何なる偉大のものも微渺のものも選擇無く逃がるゝを得ない。

我等はこの大無限宇宙を大現實と呼ばう。

人類がその小さき胸に描く理想も、結局之れより一歩も外へ出で得ぬ。否、何時でも理想と、現實とは存在自身に觀て一如なのだ。

『理想』、『現實』と我等が思つて居るものは、觀念上の便宜の所産に外ならぬ。其の時假に我等の思考が分離して居る丈で事實上には、昔、未來と云ふ如き區別はない。一切は繫つて居る。後に人智が發達すれば、數千萬年前に地球から數萬光年を距てたる一遊星の表面に棲へる或る生命體の一所作が今日地球上の歐洲大戰と斯く〳〵の關係があつたとする如き透徹せる論理と嚴然たる事實が發見され

るであらう。

第四章　勇氣は力であり、幸福の別名たり

一

吾人の生活は、休息の部面と、活動の部面とより成つて居る。

競爭場裡に於て、强者は勝ち、弱者は負くる。之れは自然である。唯、公平なる競技の法を行はしめねば、混亂である丈である。

混亂ならざる世界、舞臺の競爭場裡に於ては、吾人、弱者たるの悲鳴を上ぐる前に、强者たらむと意思するを以つて賢となす。

强者の武器は何ぞや、勇氣なり。

勇氣ある者は克く鬪ふ。克く鬪ふ者にして克く勝利を博す。勇氣なくして鬪爭なく、鬪爭なくして勝利なし。

勇氣ある者は、有効なる休息と、果敏なる活動を圖るに最も留意する。

有効なる休息とは、迎ふ可き活動の爲に萬全なる用意の意味を持つて居る休息である。

休息の過ぎたるものは頽廢と墮落。

果敏なる活動とは、人間進歩の創造力を遺憾なく發揮し、且つ價値づける活動である。

活動の過ぎたるものは暴擧、野蠻。

之等を留意することなくして優秀なる勇氣を培養するは、不可能に近い。

故に、勇氣ある者の鬪ひは第一に、自己自身に對して始まるものである。卽ち、行往坐臥、自己への反省、檢討を怠らず、改惡遷善を獲むとするの努力は、勇者に就いて特に著るしいのである。

斯くて、修養、鍛錬を求む。而して、之に依り蓄積せる、乃至蓄積しつゝある異常の實力を以つて、第二の鬪ひのコースたる、環境に批判の眼を轉ずる。

修養、鍛錬と言ふ形に現れる自己內面向上の爲の勇氣は、有効なる休息と、果敏なる活動を圖るものとは言へ、それ自身生活態に現はるゝ部面は、主として休息の部面である。

之に反し、環境への批判の鬪ひは、まがふ方なく、全く活動の部面に屬する。

之の世は、一切の——現象界、本質界を含むところの——分野に於て、平和と鬪爭、反撥と妥協とが矛盾要素たる運動性を示して居る。休息は平和に通じ、活動は鬪爭の屬である。

家庭は休息すべき場所であり、隨つて所謂圓滿を理想とする、自己自身に對しての鬪ひの勇氣を最も有効たらしむる。

平和の境涯であるべきである。

職務、事業は活動すべき世界であり、依つて男子闘一歩出づれば七人の敵を覺悟する、環境に對しての勇氣ある闘ひを、最も必要とする闘爭の舞臺であるやうでなければならぬ。

闘爭の世界で負くれば、平和の境涯で勝ち得る。併し乍ら、平和の境涯で負けて、闘爭の世界に勝ち得ることは絶對にない。

何故ならば、個は全に發現し、平和が闘爭を指導し、反對は統合に到るからである。强者とは外でもない、平和の精神に就て克く强い人である。

二

單に勇氣と言つた場合には、獨立した一個の抽象觀念で濟まし得るが、一歩具體に根を降して思考したる場合、決して單獨に在るものでなく、種々混雜した名稱であるに相違ない。

勇氣は精神力である。精神力ではあるが、勇氣となつて表面に現れるには、一番大切な智の能きが要る。智の能きに依つて事前によく熟慮し、周圍を科學的、合理的に知悉し、自己の實力をよく按察、批判する。

次に信念が要る。信念は直觀である。故に往々にして天才の最大要素と成つて居る。

他人が見ては甚だ危險だ、冒險だと思はしむる行爲、行動に入らしめ、事業に着手せしむるは、信念なくして行へるものでない。それも一般人に直ちに理解さるゝ事は少く、在世中は疎か、死して數百年後に漸く理解さるゝことさへある。ガリレオ、ダーウィン、楠正成、吉田松陰、西郷隆盛、キリスト、ソクラテス、孔子、釋迦、アリストートル、リーンカーン等の言行、何れも著聞の事例である。

更に集中が要る。集中は目標である。

目標は標準であり、價値判斷である。

ニュートンの時計を卵と間違へて煮る程の學問に對する熱心、集中がありたればこそ、あの偉大なる法則科學大系を樹立するを得たのである。彼にとつては學問が第一で、其の爲に生ずる少々の間違や、犧牲は餘り意とする所ではなかつたのである。今日の樣に總てを國家本位に專一せざる可からざる時瞬には、かゝる人類全體の福祉を目標とする如き超國家的努力は制約され、國家を通じてのみの世界貢獻をなさねばならぬのであるが、兎も角、集中勇氣の重大なる過程である。

今一つ身體の强健が大切である。

我等の精神機能は、神經中樞、心臟の能力に直接左右される。競爭者に對して、身體の健康度劣れる場合、氣合負け、根氣負けすること少なしとせぬ。

三

斯るが故に、勇氣ある丈夫たらむと欲する者は、勇氣を培養せむとする熱烈なる希願を出發點とし、次に、勇氣の培養の法を研究し、而して直ちに之が實行に遷る。

我等は悉く勇氣ある丈夫たるべきであらう。勇氣は力そのものである力が最大限に發揮されて斷乎と目標に前進する時程、崇敬にして、美しく勇ましいものはない。

勇氣ある人の自ら一歩前に出で、前進！　と號令するなれば、凡百の小人、愚人、今日迄の喧囂を一瞬中絶し、注意の神經と眼をピリツとかの英雄に集注し、魔法に懸りたるか？　ドツと陸續行く。その壯觀、地上に湧く雷雨を思はしむる。

感激と、純情と、犧牲の滿足が從ふ人の五體を燃やす。

も早や、理窟等述べて居る餘裕も、氣持もない。不平、不滿を心中に蓄へて居る餘地も、努力もない。

たゞ感激性の奔騰がある丈である。

四

勇氣ある人は無きか？

二十億全人類が待ちあぐむで居る。

眞に勇氣ある人は、勇氣を出す事自身が幸福の絶頂に在ることなのだ。

勇氣は卽ち幸福となつて居るのだ。

だから、勇氣を出すことを非常に好む。

非常に好む勇氣を出して、自己を改造し、社會を改造する、其處には疲勞のある道理がない、病氣も、老衰も襲ふ機會がない、且つ、改造された自己並びに社會に在つては、より一層勇氣を出して活躍するに都合よき如き境地が展開されて居る、邪道を振向く意思はない、正道を直進する。斯くて向上に次ぐ向上、飛躍に次ぐ飛躍の天才振りが發揮されるのだ。

不思議なことではない、あり得ることなのだ。勇氣ある天才的個人、又は民族に依つて、惡魔を神とし、地獄を極樂とする如き計畫が何故に不可能と云へよう。

不可能といふのは、さういふことを云ふ人の心持の側に已耳在る問題なのである。

南北戰爭の起る前代迄は、奴隷制度がなくなれば、米國は立ち行かぬと一般に考へられた、現今は奴隷解放令が行はれてより七拾五年、別に痛痒を感ずることなく、いよ〳〵榮えて居る樣である。蓋し、たゞ一時の問題にしか過ぎなかつたのである。

酒がなくなり、娼窟がなくなれば世が面白くなくなる、といふは、奴隷を使はなければ、生活出來ぬと考へたのと全く變らない。

資本家が勞働者を安く使ひたい、西歐人が東洋人を何時迄も搾取して自分丈、榮えて居たい、之等皆同じ、利己的な我執の獨尊の考へである、之の考へを何時迄も押し通して居ると今日の樣な自壞作用を始める。獨尊、我執は、非合理なのである。『八紘一宇』はこの反對なのだ。早く氣附く程、偉い。

酒、娼窟があることは、人が本來要求したのではない、社會生活の副產物に過ぎぬ。社會制度を變へることを考ふべきであらう。これは向上の大道だ、尤も同樣にして、之れ以上重要な原則的課題は他に數多ある。急を要するものより順次手を附けるべきであらう。

眞、善、美、賢と云ふ最高標準に照らして『間違ひない』と見られることに就いて斷じて『不可能を信ぜぬ』ことが、勇者の風丰だ。

勇者出でよ！
他に言葉はない。
强者出でよ！
機は全く熟して居るではないか？

第八編　結び

（政治小說…其の三）

1、偉人を慕ふ

大內山の重疊たる森の綠巒が崇高に嚴然と鎭りて拜せらる。御濠りの手前は絡驛の人車の運行、初秋の正午の陽差を道路一面に浴びて、快い溫度と濕氣の調和の中に、黃色い埃を高く〳〵吹き上げて居る。

大楠公の銅像が松林の彼方に隱見する。その下を三々五々の人の動きが映ずる。銅像の形は變らず位置も動かぬが、忠節の精神は何時もこの宮城の御周圍を驅巡りて警固申上げて居る。思へば目頭が熱くなる。

フト我を取り戻す。隣りに居た中國人の陳氏が話し掛ける。『日本の國は稀らしい國です。そして良い國です。美しい國です。强い國です。正しい國です。之れ以上の形容はありません』『さう御感じですか？』と自分は少しくさり氣ない返事をした。續く言葉を聽きたいと思つた。『でも中國には中國の長所をお持ちでせう？　それを御忘れになつてはいけません』『有難う、お互ひの長所を活かし、尊敬し合ふことは友愛の根本精神たることに間違ひありますまい。日支間の悶着も今度こそは結末を告げるでせうねえ、何時迄も同文同種の兩國が此奈風に兄弟檣に鬩いで居ては、……全く氣鬱します。どう有つても今度といふ今度は、精神的の結合、具體的條件の一致、之を體裁や面子とかでなく、眞劍に完成しなければならないでしよう！』『さうです』『犧牲も大變なものです。西歐人ならずとも、惡魔の神がせゝら笑つて居ることでせう。だが、西洋の諸民族國家間にも沒落の自壞作用が大木の打ち斃るゝ樣に大きい響きで聞え始めましたね！　愈々東亞の世界が來たのです。永い〳〵屈辱、隱忍の暗い夜の帳が明けて、八文字に懸る紫の幕間から隆昌の曙光がまばゆく輝く……順調にでなく、苦しくも鬪ひ取つた平和、それは一段と樂しいものです。將來、大平和の世國が來てもこの苦難時代を忘れなければいゝですが、否、その樣に子孫に教育の傳承を遺しませう。』二人は暫時默つた。陳氏は中國人と言つてもその風采、顏色、音聲、アクセント、少しも日本人と變りはない。聰明さが窺はれる。が一面その筈だ、父君の事業の關係で、東京に生を享け此方で育ち一度故國へ歸つて中學校を卒へると再び當地に遊學し、一昨々年東大法學部選科を出た、いはゞ江戸ッ子に近い方なの

だ。

自分は『しかし、運命の神は遙か遠くより招く、花形選手は與へられた目的に向つて懸命走破せざれば、勝利の榮冠を戴き得ざるのみならず、何那事でも蹉跌しないとも限りません、油斷大敵です。』計らずも大人振つたことを云つて了ふ。『それには、獅子身中の蟲、東亞の中に秘む、思想的害蟲、機構的缺陷を一刻も早く指導是正しなければなりませんね！　これは日本の　陛下の御稜威のお力にお賴りすることはもとより、我々青年が率先して皇謨をお扶け申上げる意味で起ち上らなければならないと思ひます。

有能の青年が、こう云ふ急湍の時代に、晏如と、唯々諾々老いた年輩者の爲すが儘を是として服し、口頭禪、有言不實行の袖手傍觀の批判の世界にのみ閉ぢ籠つて居ることは、天の與へた若人の義務を回避するものではないでせうか？　此那不合理な所作はありません。恥づ可きことです。之の恥づ可き行爲を依然として繼續するに於ては、その酬ひが必ず來ると信じます。眼に見えた之の事を放置するとは、何たる卑怯、將、悲劇でせう！』

此處は、Nビル七階の屋上で、十二、三米の嶺風があるので、天候は良いのだが、今日は休息に出て來て居る人は比較的尠い。陳氏は、中國青年黨の幹部らしい熱情の漲る意見を吐露して行く。同樣に自分も日本青年黨の黨員で、之れに專心身を投ずる迄に至つては居ないが之のNビル七階にある東亞洋行卽ち陳氏の父君の經營される貿易會社に勤務する傍ら、同黨の機關紙『太陽』の編輯部員として援助する外、機會ある毎に同志の獲得に、得意の辯論や、文章や、何となく魅力を持つて居ると評されるその人格力で、少なからず盡粹し、高圓寺の自宅には早や支部準備會が出來て居る程だ。この名稱相似たる二の青年黨は、その實に於ても全く一致する點が多い。精神、主眼を一にする夫れは、二人が此處に立つて斯くも仲良くし、意氣相投じて居るのでも了解出來る。W大學の政治學を修めた自分には貿易會社の勤務は、幾分似合はぬ。

遠かにこの陳氏の樣に、青年政治運動に全心全靈を投ずる樣にしなければならぬ。この陳氏の幹部たる中國青年黨と、自分の所屬する日本青年黨とは、明日にでも合同せねばならぬ。昨今の日本の政治外交は刻々に窮地に入りつゝある、當局者は最善を盡して居るのではあらうが、あれは、錯覺と、煩鎖と、頑迷と、不徹底の惡魔の船の上を醉ひ〳〵歩るいてゐるのだ！　大きな隙がある、さう思つて心は矢猛に猛る……。

『故孫文先生の眞髓を生かして、汪先生の政權も大衆の上に强化されなければならぬのは勿論だが、

日本にも、今少し確實な體制と組織が出來なければ……』と云ふ彼陳氏の心の憂が顏に現れて來る。

それは、略々自分の責任ではないか？

宮城を背にして、東京驛の見える方へ歩るきかける。……と胸を掠める、今日の日本青年の無氣力、非常識、墮落、薄志弱行、利己と利他との乖離、之等を救濟改訂せねばいかぬ。中國の中堅青年は、食事よりも好むマージャンを止めた、といふ。且つ政治、思想、軍事に力强い推進力となつて居るではないか？　健全なる若き血潮に燃ゆる男子が、シツクリ一致團結したならば、何の不可能事があらう。

其の時に、陳氏の妹君の貴堯さんが見える。『父親、吁您了（お父さんがお召しよ！）』『是麼（あゝさう）、では日下部さん、御免下さい』『どうぞ、又、今夜御目に懸ります』兩人の眼には堅き意志の誓ひが閃き、握られた二つの手は燒附けるか？　容易に離れない。男と男の魂の結合だ。

陳氏の去るに入れ代つて貴堯さんがつか〳〵と寄つて來られる。兄君と一緒に銀座へ買物に出た歸りに、父君の處へ寄られたのだ。『今夜の會合に、私も出席させて戴くことになつて居りますの』少し意外だ。『え？　さうでしたか？　青年運動と申しても、男許りが青年ではありませんからね、目覺めた、教養のある貴女の樣な方が手を借して下さるとは感謝に堪へません。日本の婦人方の中にも追々黨に加入される方も出來、貴女に劣らぬ立派なお友達がお揃ひになることでせう！　之れは御婦人方の社會的地位なり、人格的素質の向上の爲に是非共必要と存じます』『あら、大變なのね！　それ丈の資格、私にありますかしら？』『間もなく大臣秘書官になられるでせう』『日下部外務大臣秘書官？』『いや〳〵少し申し過ぎました。我々の運動で地位や名譽、利欲を先に立てゝ考へたらお了ひです』キツパリ言ひ切るを得た彼女の頰はあちらの國人特有の滑らかさで美しく、健康な五尺四寸の體格は興亞型といふに相應しい。

時計を見ると一時五分前だ。屋上に休息を求めて居た他の人々も大部分はエレベーターの方へ集りかけて居る。自分も二三歩進んで、才子悖才愚守愚、少年才子不如愚、清看他自業成後、才子不才愚不愚

と、木戸孝允の詩を思はず口ずさむ。

同時に、昨年五月　聖帝陛下の青少年に下し給へる　勅語を胸中に復誦する。

風が一しきり激しく吹いた。宮城に目禮し、階段を降りて事務室の机に歸る。

貿易會社であるから、書類の文字の大部は外國語を使つて居る。その外國語の八割は英語だ。西半

球の數千浬もの彼方からよくぞ運び來りしもの哉。

東洋人が東洋共通語を用ゆる樣になるのは何時か？　そして、それは日本語か？　支那語か？　聞けば、日本人間で、日本文字の綴りを忘れたり、書き方の拙くなつたりする一大傾向があるさうだ。支那人の日本語にぐん〳〵上達し來るのと反比例して居て變妙だ。

そんなことを思ひ乍ら汽車會社宛田熊式汽罐十基の注文書を書く。

田熊といふのは人の名で、我が國で獨特のボイラーを發明したエンジニーアの偉人だ。

今後も、どし〳〵かゝる『新しき偉人』が生れ出でて欲しいものだ。とりわけ、政界に、新體制と新政策、運用・機略を操つる、哲人的天才政治家の出現が望ましい。（昭和拾五年九月拾日）

2、神が常に看て居る！

昭和八年の十二月の歳暮も間近き頃。

玉子はその日もトボ〳〵と山ノ手の上本町目指して堀川端の流れ沿ひの黑土を踏み〳〵歩ゆむで居た。彼女は某宗派の布敎師で、今日はある肺病人の宅へ神の御訓へを說かして戴かうと出掛けたのである。

髓の頭に質素で地味な身形、久留米絣の袷衣、濃紺色の袴、黑木綿の桐葉紋附羽織を着て、白足袋に赤緒に桐の駒下駄。

肺病に罹る如き人は性格的に强情だと斷ずるのが、布敎師仲間の通念である。

三十七歳の中年未亡人。軍人たりし夫は滿洲事變に出征し、錦州攻略の折、某地で名譽の華と散つた。以後一人の遺兒雄之助（今年十六歳になる）を立派に育てん爲、實家の前記宗派の敎會に歸り、已に布敎師としての免狀を有して居りし故街頭に出で、物質的に薄遇なる人、精神的に惱める人々の救濟に獻身するのであつた。

上品で眼元涼しく、顏色は臘（ろう）の如くに白い、何處となく弱々しさが見える、たゞ氣丈夫な意思が赤く染めなした頰に覗える。

『御免下さい』ゴホン〳〵と肺病人特有の濁いせつない咳が聞えて來る。幾等呼んでも返事がない。奥の四疊半に寢た病人以外は誰も居らぬらしい。妻君は何處かへ藥でも求めに出掛けたのであらう。何回も訪問したことがあるので、それ以上遠慮なく、玄關土間の片隅に下駄を脫ぐと、板敷を踏み障子を開けて、二疊と八疊の續く横廊下を進むで病人の居る部屋へ入る。さして大きい家ではない、加ふるに二十年もなるかと思はれる古い建物だ。けれど、床の間の置物・或ひは庭先に出してある鉢植

の立派なこと、紫檀の淨机、高價と思はれる書籍多數等の見られる點からして由緒のある家柄だと肯ける。

十時過ぎの日光が狹い部屋半分に差込んで居て、冬乍ら溫かく明るい。攝氏十度近い。

靜かに枕元に坐る。病人は動かうともせず、顏色にも表情がない。察するに重態だ。布敎師に反感を持つて居るからではない樣だ。事實醫者は早くから見放し居る。

と、忽ち、玉子の美しい兩眼からハラ〳〵ハラ〳〵と涙の粒が下り始めた。聖なる情け。風彩や、顏にも增して心が美しい。

醫者の見放せるこの病人。とても助かりさうにない。せめて靈の救濟をして上げて、安らかに死出に旅立つを得ば……。嗚呼、それにつけても、何と御不憐のことよ！

玉子は續く涙を拭かうともしなかつた。

病人は漸く堅くつむつて居た眼をソーッと開いた。が、默つて居る。それに氣附いたか否か？　同時に今度は玉子の方で眼を閉ぢ、何ごとが口づさみ出した。

一分、二分……不思議な時間が、サラ〳〵と小川のせゝらぎ流るゝ如き輕快さで去つて行く。裏の熊笹のざわめきが微かに耳に留る以外何の物音もない。陽は病人の上半身を覆ひ、玉子の右半身を浮ばせ照らす。

神はこの光景を如何に見そなはすか？

『……神樣、どうか御救ひ下さい』合せて居る兩掌の間から、祈りの最後の言葉丈が細く、而して嚴かに落ちた。

眼を開くと、『如何ですか？　その後』。

布團に手を掛け乍ら靜かに吃く。六十一の病人、默つて居る。口だるいし、又、心に感動もないのだ。

『幾等祈つて下さつても助かるものですか！　御苦勞さま！』さう云つた。自己に對する一つの諦めと、相手に對する大きな嘲笑が胸一杯に湧き上つて居るのだ。

『斯波さん、貴方は懺悔をなさらねばなりません、……云々』何ときつい言葉であらう。これがあの優しい天使の如き女性の口より出づる言葉であらうか？『每度、私が申し上げる樣に、御自分の過去をよく反省なさる必要がおありです。神は故なくして災厄や病氣、其他の一切幸福、不幸の事件をお與へになる……ことはありません。貴方が、今日、曾つての榮譽ある地位から、こういふ見苦しき境

涯に墮ち、剩へ不治と稱される病魔に呻吟されるのには、それ丈の理由がお有りの筈です。』病人は何か考へ始めた樣だ。

『聞くところに依りますれば、貴方は若い時分相當の身勝手をなされた樣です。

或る時には、友人を陷れて名譽を奪ひました。それは極く巧みな方法で行はれましたので誰人も貴方を責めず、その友人は愚か者と世間に見做され、貴方は利口者として却つて敬意を拂はれたのでした。又他の恩義ある友人が貧乏にて困却し、學資もなく書籍も購ひ得ず、見す〳〵徒らなる苦勞を重ね煩悶する間にも貴方は知つて知らぬ振りをし、充分傲奢な放縱の生活を送られたのでした。

最高學府も情實で入學し、不正行爲の受驗、贈賄で卒業なされる。

貴方の態度は周圍に對して常に利己的であり、物質主義でありました。

株で莫大に儲けられたのも時勢とのみ言ひ切れぬ、と思はれます。

狡猾と亂暴が貴方の本領であつた樣に伺つて居ります。さうした過程を以つて築いた富、地位、健康、幸福が貴方の興運でした。社會運動を援助したと云はれても、理想に走り過ぎ且つ、反國體的の思想であり運動でして、それが爲に多くの人々が迷はされたのです。いえ〳〵上震禁を憂へしめられたのです。

この世の一切を支配なさる神は、人間の小智、小才を以つてする如何な事柄をもお見逃しにはなりません。善事は善事の儘、惡事は惡事の儘、この善事惡事の何方でも行へる樣に人間に或る程度意思の自由をお與へになつて居るのです。今日見る人間世界の文化的發展は、或ひは悲觀する人もあるかも知れませんが、多くの人々はその恩澤に幸福を感じて居ります。その幸福を感じて居る發展は、全く、斯る自由なる意思の機能に從つて理性の能きを活用出來たからですが、しかし、之を惡用したる場合、それ相當の人間の肉眼には見得さる運命の天罰に遭遇すべきは道理の極みです。人の世には法律といふものがあります。しかし、之を使ふ人はやはり人間ですから、時弊を脱する能はず、土地の思想、習慣を無視する能はず、結局完全を期し得ないのです。否、法律の繁文褥禮は、世相の墮落、末期を見せるものだといはれます。羅馬の滅亡する直前は、羅馬法制の最も完備したる時でありました。

網の擴がつて居る間は魚は網の存在に氣附きません。しかし、段々狹めると氣附いて身の小さく網の目より逃げられるのは網の目より逃れ、跳力强きものは跳んで逃れて行きます。こういふ魚の心理作用をなす部面は社會の一相として、どの共同生活にも附隨して居ると思はれます。法律の進歩は、道德の退歩を意味する場合が少くありません。これは、人間の心理法則と社會法則、自然法則とが一

致する最高道德理想世界が顯現せざる限り、生じ來る撞着であります。

そこで現實の私達は、法律を超え、之を操つる偉大な存在に信仰を以つて賴らなければ、足を踏み外すのです。惡心の魚はいくらでも逃げて行き、自分を墮落の淵に誘つて行くのです。

神は常に、人間すべての一事一行を看て居られます。考へて居ることをも看て居られます。法律の網を逃れ得ても神の眼を離るゝを得ません。そして神は、公平に、善、惡、正、邪を峻別なさつて居られます。貴方が今何を考へて居られるかも見そなはされ、それ相應に明日にでも酬ひをお與へになります。ですから、人は考へと、行ひを常に至純、公明に保つ樣でなければなりません。

貴方が過去に於て抱き或ひは取つた思想なり、行動なり、を充分に反省、批判なさるならば其處に自ら一ケの結論が生れて來ることでせう。

若し當時の貴方としては、あれ以上の道德行爲は出來なかつたでせうか？』フト云ひ淀んだ。病人の顏に少しくの動搖が判じられた。

强情、强欲といはれる肺病人、さういふ批難を浴びて居られる丈でも氣の毒だが、その當否は別としても、何とか救ひ途はないものであらうか？

妻君は未だ歸へつて來ぬ。周圍は依然たる情景だ。病人の息使ひが少しく荒くなつた。輕く咳を三ツ四ツ。

今日の『お話し』は少しく變つてる居る、そしてきつい、病人はさう感じた。

『どんな高位顯官にある人、如何な貧乏裏長屋にある人、神は差別をつけませぬ。かゝる差別は人間が便宜上勝手に、或ひは醜惡なる鬪爭の上に拵しらへたのです。至公至平の審判は全然、超越した別個の立場から下されるのです。

人は神になるを得ません、が神に近附くことは出來ます。之を信じなければなりません。この神に近づくの努力を避ける人には最も端的に罪の酬ひが參ります。

人類は近世近代に懸けて科學といふものを有史以來の異常さで伸長せしめて參りました。その科學の粹として咲いた華の一つが醫學でした。その醫學が最も有り觸れた病氣に罹つて居る貴方を見放して居るのです。

トルストイが老いて病氣に罹り嘆息して申しました。「醫者は醫學に就いて知悉して居る、悲しむべし醫學は病人に就いて何も知らないのである」と、少しく言は奇矯でありませうが兎も角、不思議の如く決つて昔から偉いといはれる人は學問を超えて居ります。ゲーテはファウストをして「法學も、醫學もおまけに神學迄勉强したが、以前より少しも賢く、なつて居ない、むしろ何も知つて居ないと

いふことを知つた」といふ意味のことを言はしめて居ります。

貴方は學問としては實に立派な經歷をお持ちです。でも、それ丈では人生を滿足に送ることは不可能ですし、人間も完成され難く、方法として片手落ちなのです。世には後の殘されし今一つの方途を知らずに過す人も少くないのですが、貴方には幸ひ、現在のこうした病氣を通じて神樣がその途へ御誘ひになつて居られます、貴方はこの途に這入らなければなりません。

醫學の功績や力は充分認めなければなりませんが、醫學丈もつと廣く申しまして科學、唯物思想、理性の能力丈では人に優れた幸福が齎らされ得ないといふことを知らなければなりません。どうしても下等な幸福感に滿足されようとする方はこの限りではありませんけれど。

名醫は藥で治さず、心で癒やすと云はれて居ります。

宗教は概ね唯心論ですが、この唯心思想は一面の嚴たる眞實を證すものに間違ひありません。心の構へ、持ち方を變へることに依り、肉體を改革し、環境を改造したる例は數限りなくあります。

社會改造家、政治家の中で進んだ考へを持たれる方は皆この點に氣附いて居り、この點を一切の政策の出發點と仕樣として居ります。

もう、そんなに長く申し上げませぬ。貴方の病氣も心をお入れ更へになることです。さうすることに依つて必ず、御病氣はお癒になるでせう。私の體驗から左樣斷じさせて戴きます。（中略體驗を語る）

貴方の心の入れ更へは先づ、過去を懺悔なさることですネ。如何です。未だ、御自分では懺悔する程でないとお思ひですか？　自己に妥協してはいけませぬ。自分で自分を許しても神はいつも人の一思一言一行を看、聞きして居られるのです、善い事はお賞めになります、しかし惡いことは決してお許しになりません。神は何事も常に見て居られるのです。』

3、嗚呼、許して呉れ！

恐ろしい學者だ。學士、病人も今迄この若い御婦人が斯くも達識博學の方であるとは知らなんだ。否、玉子も今日は、すつかり、逆せ切つて居るのだ。自分でも氣附かないし又、知らないことがスラスラと口に含まれるのだ。人の熱心は凄じい。玉子は已に死を覺悟して居る。この病人が救はれゝば眞理の勝利の生きた手本が出來、何よりも强い宣傳であり、神の御使ひの目的をよく達する、人類進歩の第一線に立つての闘ひだ。本人も救はれゝば如何程か喜ぶであらう、その幸福さうな笑顔を見たい。人も我れも共に丈夫で、幸福に、さうあつてこそ、この世は眞誠に明るい。

この萬人幸福の理想の爲に自分一人位犧牲になつても構はぬ。即ちこの病人を救ふ爲に、自分が肺病に成り代つてもいゝと思つて居る。かゝる熱心が今日の玉子を創つたのだ。

氣が附くと傍らに何時の間にか妻女が來て端坐し俯向いて默然とお話しに耳を傾けて居る。

『かう云ふ歌があります。

風神の心の塵を吹きやらひ
注ぐ光に笑む春の幸

それと未だ或る物語りを申上げませう。

某二十二歳になる青年と十九歳になる良家の令嬢とが戀愛に陷りました。さうして双方共兩親の承諾も得ずに結婚したのでした。しかし、どうでせう、その男の方は間もなく、巧みな口實を拵しらへて離婚を迫り、遂に新しい他の女性と結婚されて了ひました。根本の理由は全く、その男の方の氣儘放懦以外になかつたのです。

箱入娘で世間知らずだつたその令嬢は、この離婚の破曲に至り、非常に落膽致しましたが、幸ひ母の身になつて居りませんでしたので、間もなく他に良緣を求めて嫁ぐを得ました。ですけれど、如何にせん、過去の心の打擊を拂拭し去ることが出來ませう。その御婦人は、曾つての明朗なりし性質も一變し、再緣して幸福乍らも尙淋しい一生を送るを餘儀なくせられました。

一人の男子の簡單な不眞面目が、斯くも重大に一人の女性の一生を不幸にして了つたのです。かの男子は一向に、さういふことには氣附かぬ樣でした。尤も、御自分の遊學の爲に遠く離れて行つたのです。

あの女の方の名は惠美子、今年五十八歳で未だ生存して居ります。何を秘しませう私の實母です。奇しくもその母を持つた私が、今、三十九年前私の母を捨てゝ恥じざりしかの不德の男子即ち目前の貴方――肺病に罹つて落魄せる貴方の前に立つて、勉學の爲に犧牲にされし母に代つて、そしてその爲に苦しんで居る貴方の爲に、宗敎を說いて居るのです。これが神の引合せと云ふものでせう。』

自業自得か？　不氣味なことだ！　おゝ何たる因緣ぞ。斯波氏は無意識に『ハーツ』と深く嘆息をついた。

『全く知りませんでした。――恐ろしいことです。――濟みませんでした。』――始めて聞く悔悟の言葉。

徐ろに語る。『僕は、病氣に罹つて以來、少なからず世間を怨んで居りました。これが一層病氣を昂進させたことは事實です。家運一度び傾いて參りますと、今迄相手にして居た人、此方から面倒を見

て居た人は段々足を遠ざける様になりました。況してや全くの他人は總じて嘲笑の眼を以つて我を眺めて居る様に感じられました。その度に、私の身體は煮え返る思ひを致しました。しかし、今のお話しを聽いて始めて、自分の曾つての罪惡の方が、微少な善事に較べて遙かに重いものであるとわかりました。私の社會運動等却つて世間を騒がせ、健全思想を破壞する様なものでした。正に私の罪惡史の一頁です。陛下に對して申譯けありません。

思へば、自分の娘や、息子が側に居て看護もして呉れず、私の財産を思ひ〳〵分捕にし、勝手に逃げて知らぬ振りをして居るのも理由が判然と致しました。

最近は淋しくて仕方がありませんでした。これも、今迄他人に淋しい思ひをさせたことのある報ひであると思へば、よく了解出來ます。

最早救はれました。先生！

貴女の御蔭で救はれました。病氣は癒えずとも、私は……私は滿足です。力强い、慈愛の神がいつも側に居て下さると信ずることが出來ます。最早、神は私を監視するのではありません。溫い手で抱いて下さるのです。大きな〳〵知らなかつた！　この大きな愛の力！　あゝ許して呉れ！　惠美子許して呉れ!!

起き直つて、玉子の前に兩手をつく。妻君も涙の瞼を手で押へる有様。

『いえ惠美子とやら云ふ人に謝まる必要はありません。陛下様にお詫び下さい。神様に謝つて下さい。』と玉子のさとし。

斯波氏は再び感嘆した。東方遙かなる宮城に向き直り、

『陛下の臣子にして若年身を誤り、一人の赤子の一生を破壞し、將、長じて世間を紊る、申し譯けがありませぬ。神よ！　お恕しあれ！』

言葉は簡潔だが、深く虔ましき、誠意が認められた。

老いた孤獨の人斯波氏は斯くて更生の途に上る。そして一切を觀念し切ると不思議に病氣が癒え始めた。

玉子も其後幾回か訪問し、神の御訓へを、更に種々なる例證を盡して說き極むるのであつた。

4、正しく明るい世界

今日の世界は、曲れりと見ゆるは何故か？

現下の世界は、暗いと感ずるのは何故ぞ？

次代に責任を負ふて現代を擔當する者は青年である。

現代の青年にして、今時のこの曲り暗い世界を拔本塞源的に改造し、人類全部を苦惱煩悶の境涯より、古き絆を斷ち切りて新しき正しく明るい世界を展開せしめ得る、大信念ありや、科學的具體策ありや、人格的能力を有せりや!!

若し有らば、その準備完かれりや?

此處は、上海中央區朝日路、亞細亞劇場の正面である。

時は、昭和二十四年四月一日、夕刻六時にして、

催し物は、『亞細亞青年黨創立四週年記念講演大會』である。

本日、實は、亞細亞聯邦各國の青年黨代表幹部青年八百餘名が集りて青年黨總會も行はれたのであるが、夫れは先刻終はり、今や講演會に遷りたる次第である。

滿四ヶ年前の創立總會は百名に滿たざる少數を以つて東京日比谷に發足し、漸次中堅幹部の增加を見つゝ、第二回は新京、第三回は印度デリー、と回を重ね、本年は當上海に最も盛大に開催せられたのである。

日本、滿洲、中華、印度（昭和十八年に獨立）

タイ、イラン、シベリア（昭和二十二年に獨立）

南方民族同盟（佛領、蘭領印度支那、外南洋諸島全部を含む）の各邦に、青年黨の支部が置かれ、總本部は東京に有る。

畏くも我が國　聖上陛下を名譽總裁として仰ぎ奉る。加盟各國の元首におかせられても、一樣樞要統攬の地位に就かせられ給ふ。

（御斷り！　之等現實の事實には未だあらず、一點の丹心止み難き理想として筆者想像し奉る）

黨の根本理念は『八紘爲宇』『天皇統治』である。

何れの國に於ても活潑なる政治が行はれ、委員長、又は統領（今日の總理大臣）の指導の下に、民族向上、興隆亞細亞の共通方針の實行に邁進しつゝある。取り分け我が日本では、誠に亞細亞の盟主たる名に背くことなく、早くより一國一黨の革新政治體制を準備完成し、その目覺しき國內の萬般の飛躍向上は、見る人をして瞠若たらしめて居る。進んでは十年前の事變の印象を完全に去り、東亞の軍備方策、貿易、金融組織、產業、交通關係、敎育、宗敎、學術の問題、等新秩序大綱を決定し、且

つ實績を擧げつゝある。革新政治體制の實現せられざれば、東亞聯邦の諸問題は疎か、國內問題でさへも已に處理され居るや否やを疑はしむ。

御稜威のこもる優秀なる眞實なる組織の力は、普通の行き方の數十倍の力を發揮して居るのだ。偉とせざるを得ぬ。

昭和十五年の今日描く、

之等は果して砂上樓閣に等しき夢想であらうか？

兎も角、講演會の內容の叙述を續けねばならぬ。

開會の辭が濟み、最初に急霰の拍手を浴びて今しも壇上に端嚴と立ちたるは、身長、五尺五、六寸の中肉中背、年齢三十四、五歳にして紅顏なる日本青年だ。外ならぬ、日本總本部組織委員長Y氏である。

我等は、この新時代の青年が、その大舞臺にスックと立ち出で、何を語らむとするのであるか？を聽かんと欲する。

筆者も、青年黨の內容に就いて之れ以上詳しく說明するを避け、この愛す可き快男子の叫びを虛心坦懷に聽き、以つて本文の結びとせむと希ふ。

Y氏は讀者諸賢の早や想像さるゝ通り、九年前の秋、東京、Nビル七階屋上に於て當時の中國青年黨指導部長陳氏と語り合つて奮鬪を誓ひし御仁である。

少しく話は前後するが、Y氏の母は、斯波氏を肺病の重症から救ひし彼の神の如き布敎師玉子である。さればY氏とは一子雄之助にてありしか？　隨つて彼の血液には父軍人の規律、謹嚴の武士道性格と、理智に富み且つ玲瓏玉を思はしむる品性、炎熱燃ゆる宗敎家的熱情を母から受繼いで居り、以つて彼の人物を特色附けて居るのだ。

場內は一時鎭つた。コトリともせぬ。一秒、二秒、五秒、十秒、青年は一渡り八千人の坐る場內を見廻し終ると、青眼に構へ、しかし、極く自然の動勢で口を開いた。

『榮ある本大會に參集せられましたる滿堂の諸君！（言葉は統制された日本語だ）

白歐人種の沒落、西の彼方に漸く顯著ならむとするに先立ち、東亞民族は獨立自主の氣魄と實力を携へまして、自らの爲の、又彼等の爲を思ひての新平和世界を確立せむと目覺め、その大根柢勢力たる亞細亞青年黨は創立以來五週年を迎へ、第五回總會は十億亞細亞民族の熱誠なる支援を受けまして絢爛たる盛會裡に終了せられ、玆に私が『正しく明るき世界』と題しまして所懷の要領を述ぶるを得るに至りましたことは、最も欣幸とし、感謝に堪ふる能はざる所であります。

諸君！　我が亞細亞青年黨の母胎は遠く今を去る十年の昔に遡らなければならないのであります。當時は今日我等が廣く標榜する精神、綱領と全く同じ趣旨、綱領をかゝぐる結社としては日本青年黨並びに中國青年黨の存するのみでありましたが、何時の革新團體も同樣でありまする樣に、路傍の石にも等しき微々たる存在にしか過ぎなかつたのであります。然し數年を出でずして、十倍する黨員數に達し、壓迫すべき似而非團體は之を壓迫し、翼下に納めて指導すべき共鳴團體は之を指導し、間もなく有爲有能なる優秀青年幹部を中心とし、苟も世に一眼識ある人士は總て顧問黨員たらしめ、地方に於ける產業界、各職業分野の青年又皆黨員たり、その數、百萬を突破致しましたのは昭和十七年の初頭今を遡る七年前でありました。

之より先、中國青年黨も飛躍に次ぐ飛躍を告げ、日支事變の激しき戰鬪中を、創立者の一人であり今日此處に指導部長として臨席さるゝ陳氏等がその中心となり、東奔西走、コミンテルンの背景を持つ中國共產黨を第一に血祭に擧げ、その組織を破壞し、後方との連絡を絕たしめ、更生せしめ、生活の安定を促し、歐米依存の勢力も同樣の方法に於て屈服せしめ、汪精衞政權を支持する最有力結社となり、中華青年中の青年たるその正黨員の數も四ヶ年前の創立總會の折には二百萬餘に上つたのであります。

單に數の上に於ける黨勢擴張の狀態を見ましても充分肯けるところで御座いますが、この他の點に就きまして、東亞の天地に如何なる衝動を與へ、進展の機運を促進し、その存在を明確ならしめましたかは、吸々を要せざるところであります。

然して現下の勢力如何？　之れ又斯くも第四回總會の盛壯に開催せられ、諸君が熱心に政策や、議題を審議、討論し、その支援の勞を全く惜まれて居らぬといふ事實が、最も雄辯の證左であると云はねばなりませぬ。

そこで、今や私は、我が愛する東亞の中心指導勢力たる亞細亞青年黨の光輝ある將來に就いて論じなければならぬ。

諸君！　遙かに眼を轉じて歐洲に一瞥給つて下さい。第二次歐洲大戰に從つて占められしかと見え

ました獨、伊、ソの覇權は、再びアングロサクソンを中心とする卽ち米國の援助による英、佛の激しき復讐第三次歐洲大戰が前回よりも愈々深刻に且つ更に廣域なる大西洋を中心として勃發せむとする動向にありますることは達眼の士の等しく確認するところであります。それと申しますのも東亞に於て日本を中心とする　天皇統治の强大なる東亞ブロックが速く達成されたからであります、若し之れが玆數年遲れて居りましたなれば、今日頃は日米大西洋海戰の演ぜられつゝある時機でありましたらう。

斯くて鬪爭を知つて協調を演じ得ぬ、白歐獨特の個人主義社會は悲劇、失敗に次ぐ失敗を展開し、再起する能はず、物質文明の終焉を告げしめんとして居ります。極盛の米國と雖も果して今後よく幾年の世界征覇を續け得るでありませうか？　亞米利加モンロー主義は到底放棄し得ざるところでありますし、又、極端なる繁榮に次いで來たる衰亡の徵候たる利己主義、享樂主義の橫行、拔く可からざるものがあります。

北歐に蟠居するソ聯更に如何でありませう。之れ又、その思想的缺陷、地理的不遇、並びに人種的缺點よりしまして、決して世界を指導し得る文明國、優良權力國家たり得ざるであらうことは瞭かであります。

玆に於きまして、起つべきは、大和民族、漢民族を中心とする亞細亞民族であると云はねばなりません。蓋し東洋の理念に於てのみ沒落しつゝある世界他民族の蘇生を計り得ると信ずるからであります。

我等が、新世界指導の歷史的法則の上に立ち、その法則を凝結せしめ、發展せしむる丈の素質と位置とエネルギーを培養し來つて居ることは聊か自畫自讃に屬し、又已に多くの先覺者に依つて科學的に立證せられ、或ひは民族全體に宗教的信念となり居る所でありまする故、此際述べるを避けるでありませう。唯、一つ理想に就いて語らねばならぬ。我等の一貫して最高概念として表示しましたるイディーは「八紘爲宇」であり「天皇統治」でありましたが、之を今改めて別の言葉で申しますなれば「正しく明るき世界」の建設以外何ものもないのであります。

最高概念と申しましても、東洋にはのみ存する立場がありまして「正しく明るい世界」も一面東洋的理念の性格に制肘せられて展開せざるを得ませぬ。

白歐人に依つて思惟せられたる正しく明るい世界に非ずして、東洋人に依つて思索せられたる正しく明るい世界であります。

最近三百年間に於ける世界認識の主柱は西歐であり、その西歐的世界概念の樹立、形成、浸潤は物

質的自由主義、資本主義、立憲制、基督教理中心思想（ヘレニズムの）、或るひは社會主義、共產主義、無政府主義、最近に於ける全體主義の相貌として表象せられ、一切の非西歐的卽ち東洋的性格概念は之に屈服するを止むる能はず、計らずも呻吟するに至つたのでありますが、軈て之の屈服の時代を脫却し、新しき文化史的實踐を、新しき世想概念、卽ち東洋的世界概念の形成遂行と相俟ち、普遍眞理と信ずる體制、秩序の建設に向はしめんとする、その目標として前途に燦と輝けるものが我等の描く正しく明るい世界であります。

この地上より、自由、平等、正義人道の理想を奪ふことは恰も天上に懸る太陽の光明を滅さんとするに等しいのであります。唯、只今申しました樣に、自由と云ひ、平等と云ひ、正義と云ひ、人道と云ふも、夫れは倦迄東洋的思想、文化、傳統の概念の擴充なり、飛躍なり、實踐なり、努力なりの基底に構築せられたる新理想體系に非ざる限り、無價値に歸せざるを得ませぬ。

尤より我等は、過去並びに現在を無視したる將來を語るを得ませぬ。將來の飛躍は、今日迄に形成し、發展し來りたる全くの文化財を止揚し、一層合理化し、時間的乃至歷史的の關聯を昇華するといふ一勞作を厭ふものであつてはなりませぬ、隨つて西歐的なるものも、新東洋的性格の中に發展的解消を遂げせしむる樣でなければならないのであります。

斯くてこそ人類進步の次期段階に立つ理想世界に直入するを得るでありませう。

諸君！　一切の思想的準備は終らんとしつゝある。同時に曠古の世界的大事業を行はむとして已に手段は確立せられ、早や第一期は通過した。

我等が第一に着手し來つた、啓蒙教育運動は亞細亞諸邦、就中、日本、滿洲、中華に於て嚴然たる成果を擧げつゝある。

御覽下さい、支那に於ける排日思想、日本に於ける反國體的獨善思想の驅逐、而して反共、和平の生活組織。何處の兒童も安んじて、大亞細亞教本を手にし、精神的緊密の事實を示しつゝあるではありませぬか？

第二に經濟ブロックの結實過程を御覽下さい。日本の工業はよく中華の原料を消化し、南洋、印度シベリア各國間の貿易又圓滑に、財物の價値を實質とする新貨幣制度により、物價は安定し物資は大增產を遂げ、貧富の甚だしき懸隔は失せ、よく有無相通じ、各國の輸出入、ブロック經濟組織に入らさる五年以前より何れも數倍に飛躍し、日本の如きは昨年度、八十億に達して居るのであります。我等は最早何等歐米との交涉なしの經濟生活をしても良いと思はるゝ程である。

之に隨ひまして東亞艦隊六十萬噸の建造、東洋飛行隊十萬機編制、或ひは新科學兵器の製作、歐米

との海運船舶の三十萬噸增產、チベット、中央亞細亞を貫く陸上交通路の開拓。文化の殿堂、科學研究所、文學藝術道場、博物館〇〇大學町、公園、體育場の設置等諸君のよく御存じの通りであります。

西歐米諸國は、遠からず東洋に範を求め、精神文化上の恩惠に浴し、物心一如、やがて我等と協調して東洋ブロックの擴大たる新世界體制を組織するの努力を惜しまず、斯くて重ねて申します、眞の確實性、合理性に立脚せる恒久的平和、幸福の世界へ突入するに至るでありませう。そこに見らるゝのは、眞實の自由、平等、調和、仁慈、理解、の世界に外なりませぬ。戰爭の禍根となる一切は殲滅され、人類の精神的、肉體的向上を圖る爲の競技が演ぜらるゝ已耳でありませう。しかし今未だその新世界に達して居る次第ではありませぬ。今後幾十年かを費し努力して招き得るであらう所のものであります。其間、相當の苦難の途を覺悟せねばならないと存じます。油斷は禁物であります。足許を確乎と踏み緊めねばなりませぬ。諸君!!　朝まだき東天に赫々と昇り行く太陽を想起し給へ、

烈々撓みなくあの至大の抱擁力を示す光を以つて、地上萬物を照破し盡し、疲れたるものに活動力を與へ、病めるものを癒えしめ、斃れたるものを奮ひ起たしめ、時に死せるものを蘇らしめ、老ひたるものを若返らしむ、生々發展、潑剌と無邊際に溢れ、郁々と心奥に香り、滔々と無限の時流を搖ぶるその生命エネルギーの偉大さを!!

太陽は力の權化であります。我等の生命そのものであり、希望の巨火であり、絶對愛の神であります。我等は地上、百年の生を保つ間、この太陽の精神を以つて自らの精神とし、歩一歩々々現實の足許を踏みしめつゝ高く遠き理想に向つて不斷の邁進を續けやうではありませんか?

おゝ、理性は鍬であり、情熱は力である、之の情熱の力を以つて理性の鍬を大地に打振ふ時、一切調和、物心一如の黎明の鐘が高く遠く鳴り響き初むるでありませう。

現實幸福世界は不斷に續き、遂にはそれが至上幸福の理想世界に突入する唯一有力の基礎となるでありませう。常に希望せよ、撓まず努力せよ!　以つて正しく明るく生きよ!

諸君等が希望し努力して、正しく明るく生きる事が取りも直さず世界に希望を與へ、努力せしめ、正しく明るくする根本となるのであります。

人は、眞、善、美を揭げ、權を說き、利を薦め、聖を敎へ、或ひは愛、更に力の養成を促す、之等悉く正しく明るい世界の缺く可からざる一大要素であります。

常に希望せよ!　撓ゆまず努力せよ!

之が私の心中に秘し置く能はざる念願であります。一言諸君に訴へ得て滿足に存じます。御淸聽を汚しました。

大きく長い／＼拍手の波に送られて席に歸り、更に自動車を驅つて歸途に就く、その車中の傍らには老ひて尙、否いよ／＼美しき、人格の高貴さを現はす、母のハンカチで眼を覆ふ姿が認められた。自動車は宿舍〇〇ホテルへ向つてスピードを出し始めた。雄之助は、熱辯の後の疲勞を聊かも見せず母の手を確かり握つた。母は衆生濟度の大願を持ちし宗教家、その子は今や、それを政治に遷して大成功を收めつゝある。母子二代精神、念願の一貫せる熱心、力、美しさ！

玉子が男子でありしならば、矢張り雄之助に劣らぬ大政治家と成つて居たであらうに。

母のか弱き女手を以つてしては到底行ふ能はざるを、子は若き血潮に燃ゆる熱情を以つて實行しつつある。玉子は感極つて泣いて居るのだ。人は他人を愛し以つて自らを慰むる本能を持つ。この母子は衆生一切を愛し救濟し而して自らを慰めて居るのだ。雄之助の政治運動の根本精神は外でもない、この宗教的愛そのものなのだ。『お母さん！　僕の事業も略々目鼻が附いた樣に存じます。』『本當に、本當にねェ……、體を何時迄も丈夫にして……そして皆樣の爲に少しでも多く克く働くんですよ……』雄之助は母の胸に顏を埋めて嗚咽し、玉子は白い手でその肩を抑へ、美しい頰を、靜かに柔かく、强く奮鬪、精進、努力の熱血兒雄之助の額に擦り寄せるのであつた。愛、そして力の藝術極美。永へに榮光を！

昭和十五年十二月十日印刷
昭和十五年十二月十五日發行

（定價金一圓二十錢）

著者　園田豐

東京市澁谷區隱田一ノ一二五
發行者　大日本赤誠會　園田豐

東京市神田區小川町二ノ一二
印刷所　株式會社　秀英社

東京市芝區田村町二ノ一三
發賣所　大日本法令出版株式會社
電話銀座(57)六四一九
振替東京二五二三七番

409
324

¥ 1.20